様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　元 年　 ６ 月 ２４ 日現在

機関番号：２８００３
研究種目：挑戦的萌芽研究
研究期間：2015～2018
課題番号：１５Ｋ１５８０９

研究課題名（和文）精神疾患患者へのハンドマッサージを用いたケア技術の開発に関する研究

研究課題名（英文）Research on development of hand massage care for people with mental illness

研究代表者
鈴木　啓子（Suzuki, Keiko）

名桜大学・健康科学部・教授

研究者番号：６０２２４５７３

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　2,500,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は精神疾患患者へのハンドマッサージ(HM)によるケア技術の開発を目指している。片手5分間ずつの両手10分間の軽擦法によるマッサージ手順書を作成し、健康な成人を対象にHMを実施し、その効果を検証した。次に、精神科急性期病棟にて統合失調症、認知症、双極性障害等の患者を対象にHMを実施し、その効果を検証した。以上を踏まえて精神科入院患者を対象としたHMを用いたケアの実施および実施する際の留意点等について、専門看護師および熟練看護師、精神保健指定医を対象に面接調査を行った。その結果、全員が精神科における看護ケア技術としての有効性と実施可能性について肯定的に評価し、留意点も明確になった。

研究成果の学術的意義や社会的意義
　精神疾患患者の身体に直接ふれるケアは侵入的で患者の安全を脅かす可能性があるとされ、学術的にもふれるケア技術がほとんど顧みられることがなかった。本研究では精神疾患を持つ患者の多くがHMを好み、心地よさを提供できることが示唆され、今後の精神科領域におけるふれるケア技術の有効性への示唆を得るができた。合わせて、従来、精神科領域において積極的には推奨されてこなかったふれるケアの最も簡便な方法としてHMを推奨できることを示すことができた。HMのケア技術は看護職のみならず、患者自身が家族や友人を対象に実施でき、当事者主体の回復や対人交流の促進にも有効と思われる。

研究成果の概要（英文）：This study aims to develop techniques for hand massage (HM) care for people with mental illness. The researchers created an HM protocol of 10 minutes of soft massage, five minutes per hand. This was tested on healthy adults and the results were evaluated.
Next, HM was implemented for patients on acute psychiatric wards who suffered from schizophrenia, dementia, bipolar disorder and other disorders, and the results were evaluated. Based on the above results, we interviewed specialist nurses, and experienced nurses and designated mental health physicians, regarding HM care for the mentally ill and issues to take into account when implementing HM care. All interviewees gave positive evaluations of the efficacy and feasibility of HM as a nursing care technique for psychiatric patients, and issues to be taken into account were clarified.

研究分野：精神看護学

キーワード：ハンドマッサージ　精神疾患患者　代替補完療法　精神科看護　看護師

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９、ＣＫ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

近年、タッチングやマッサージなどの代替補間療法が注目されるようになり、癌患者の疼痛緩 和効果や認知症高齢者のケアや睡眠導入効果、リラクゼーション効果、ストレス状況下にある患者のストレス、不安、苦痛の軽減効果などその有効性が多数報告されている。一方、精神疾患患者を対象としたタッチングやマッサージなどのふれるケアによる効果に関する研究は非常に限られている。国内では唯一、Kito(2016)が準実験的研究デザインにより統合失調症患者へのフットケアによる効果を検証している。無為自閉の強い残遺型統合失調症患者全員の陰性症状の改善が報告されている。フットケアは準備や片づけに時間と手間を要するが、より簡便な方法としてハンドマッサージ(以下 HM とする)があがる。鈴木(2014)は統合失調症患者を対象に HM を実施し、患者の心身のリラクセーション効果について明らかにした。

精神症状のある患者の身体へふれる関わりは、侵入的であり患者の安全を脅かす可能性があり、 避けるべきであるという認識が精神科の臨床では一般的である。このため、統合失調症等の精神疾患に罹患し、精神科病院に入院中の幻聴や妄想のある患者を対象にしたふれるケアに関する研究はほとんどされていない。研究者らの統合失調症患者を対象とした HM による介入研究(2014)では、幻聴・妄想・無為自閉などの精神症状の改善および患者の自発性を引き出すことができた。本研究は、国内外でもまだ取り組まれていない精神疾患患者への HM を用いたケア技術の開発を目指している。

治療効果がない精神科入院患者は、他者のはたらきかけへの反応がみられず、日々かかわる看護者でさえもこれらの患者へは足が遠のいてしまいがちである。HM はふれるケアの中でも簡便に実施でき、また無理に会話をしなくても自然に患者の側で実施できるケアである。

(引用文献)

Kito,K.,Suzuki,K.(2016)Research on the Effect of the Foot Bath and Foot Massage on Residual Schizophrenia Patients, Journal Archives of Psychiatric Nursing Jun;30(3):375-81.

鈴木啓子,平上久美子,鬼頭和子(2014)統合失調症患者を対象とした HM のリラクセーション効果に関する研究,名桜大学総合科学研究所紀要,45-55.

２．研究の目的

本研究は、精神科病院に入院中の精神疾患患者を対象とした HM を用いた有効なケア技術の開発を目指している。これにより、現在は看護として十分認識されていないふれるケアを精神科看護技術として広く活用するための基礎資料を提示する。

３．研究の方法

(1)精神科入院患者(精神症状のある精神疾患と診断された患者)への HM に関する国内外の文献検討を行う。先行研究の検討および研究者らの実践に基づき、精神疾患患者を対象とした HM を用いたケア技術のプロトコールを作成する

(2) HM を用いたケア技術のプロトコールを用いて、健康な成人を対象に HM を実施し、その効果について評価を行う。合わせて、HM を受けて実施手順や方法、施行者のかかわりについて面接調査を実施する。これにより、プロトコールの検討を行う。合わせて、専門看護師への面接調査を実施し評価を行う。

(3)検討した HM を用いたケア技術のプロトコールに基づき、精神科入院患者を対象に HM によるケアを行い、その効果について検討する。

(4)以上の結果を踏まえて整理した HM のケア技術内容について、専門看護師、熟練看護師、精神保健指定医への面接調査を実施し、臨床における実施について検討する。

なお、本研究は研究者所属機関の研究倫理審査委員会における承認を受けており、自由意思の尊重、プライバシーに関する守秘義務を遵守し、匿名性の保持に十分な配慮をした。

４．研究成果

(1) HM については，成人健常者へのリラ クセーション効果（小池ら 2003，佐藤 2006，大川 2011， 天野ら 2013），認知症の高齢患者へのリラクセーション 効果（手島 1994，得居 2001，Suzuki2011，廣橋 2013） に関する報告は多数あるが、精神疾患の診断により精神科病棟に入院中の患者を対象としている介入研究は限られていた。医学中央雑誌等国内データベースによっても、HM と精神障害者に関わる文献検索および検討をした結果、2000 年以降において会議録を除いた 12 件が精神科医療機関における HM を用いた介入をしていた。HM の対象は認知症患者が 6 件、統合失失調症および気分障害などを含めた対象者は 5 件、児童思春期病棟入院患者が 1 件であった。1 件は精神科デイケアで通院患者を対象としていたが、精神障害者とされている中に睡眠障害による心療内科受診者た性的違和による受診者、軽躁状態など安定した在宅生活を送っている成人女性達が対象となっていた。いわゆる精神科入院患者の多数を占める統合失調症や気分障害等の患者を対象としているものは 4 件であり、うち 2 件は入院患者と家族の関係調整を目的に実施された明渡らによる報告が 2 件(2014,2016)であり、2 件は研究者らによる統合失調症患者を対象に実施した報告(2014,2016)であった。先行研究の検討より、いわゆる統合失調症や気分障害等の精神科病院の入院患者の多数を占める対象者への HM の研究が限られていることが明らかになった。以上の結果を踏まえ、研究者間で複数の HM の実施方法の検討を行った結果、圧をかけないゆっくりとした接触と優しいタッチによるふれるケア

が皮膚感覚を通して、受け手が施行者から大切にされている感覚や心地よい温かさを実感できること、特に精神症状により知覚や思考、自我意識等の精神機能に障害のある精神疾患患者へ実施する際には有効と考えた。そこで、精神疾患患者を対象とした HM のプロトコールを作成した。片手 5 分間ずつの両手 10 分間、無香料オイルを用いたいわゆる軽擦法によるソフトマッサージであり、マッサージについては圧をかけずに、実施部位は手指先から手首までの範囲とした。

(2)次に、このプロトコールをもとに精神科単科の民間病院閉鎖病棟に入院中の統合失調症と診断され幻覚や妄想、思考の混乱などの陽性症状がみられた患者で、本研究への協力の同意が得られた 4 名に予備調査として HM を実施した。介入中の患者の言動は HM 実施終了直後、可能な限り詳細に記述し、これを質的記述的に分析検討した。その結果、精神症状がある対象者に共通する特徴として、視線はマッサージ施行者の手元ではなく顔に向けられ、また施行者との相互交流は成立せずに、むしろ一方的な施行者への配慮のない一方向的な話しかけが続いた。以上を踏まえて、健康な成人を対象に HM による反応を測定し、その結果を統合失調症の陽性症状のある患者への HM の反応とを比較することにより、精神的に病的症状のある対象者の HM による効果をより詳細に明確にすることができるものと考えた。

そこで、健康な成人 14 名を対象に HM をプロトコールに基づき実施し、HM 中の研究者への対応および姿勢、視線等については参加観察をし、実施後に HM を受けた体験について面接調査を実施、分析した。その結果、健康な成人に共通する特徴として、対象者 13 名の視線はマッサージ施行者の手元に置かれ、全対象者が圧をかけるマッサージを想像し、今回のプロトコールによる方法を予想外と語り、ほぼ全員がマッサージを心地よく感じていた。対象者は、施行者の簡単な説明に何が始まるのか不安と期待の入り混じった気持ちでマッサージを受けるが、片手が終了した時点で同じことが繰り返されると予想し、後半はリラックスし眠気を感じていた。以上より、健康な成人は HM を通して施行者の会話への不参加態度と自身への専心を感じとり、それに同調した姿勢や態度をとっていた。視線や姿勢は相互作用の調和を評価する一つの指標になる可能性が示唆された。精神症状の影響を受けている精神疾患患者の場合、病状の改善や安心や安全を感じられる変化は、HM における施行者との相互作用の調和を示す姿勢や視線の位置、また会話の量と質の変化により評価ができることが示唆された。精神疾患患者を対象に HM を実施した際の患者と施行者の相互作用の評価で、上記に留意することとした。

(3)民間の 1 精神科病院において HM を用いたケア技術を実施した。精神科急性期病棟において入院患者 21 名を対象に HM を実施した。延べ 98 名の患者が 1 回以上の HM を受け、3 回以上継続的に実施した者は 16 名で平均年齢は 54.4 歳であった。21 事例について 1 回のみで希望のなかった者と複数回患者自らが希望した者にわけ、事例分析を行った。分析の結果、病棟スタッフからの要請が研究者にあり、入院後間もない病状が不安定な患者については、HM を初回は受け入れ実施することができるが、その後、声をかけても患者自らが希望することは少なかった。病棟で日々かかわる看護師より、ハンドマッサージの効果である安全感や安心感の保証、心地よさの提供が、環境に慣れていない患者にとって有効であろうというアセスメントによるものであったが、特に入院後 1-2 週間以内の統合失調症の事例については、患者自らが希望することは少なかった。

一方、他患者の仲介があったり、自らが希望した患者の場合には、複数回の利用があり、自分のリラックスしたい、あるいはストレス解消や退屈さを紛らわせる等のニーズを満たすための利用であることが多かった。その多くは気分障害でうつ病との診断を受けている中高年の女性患者だった。これらの患者は、研究者が精神科病棟のホールで他患者の施行をしていると、側に並んで待っていたり予約をしていく等が見られ、さらに病棟内で仲の良い他患者に実施してほしいと研究者に要請する者も多くいた。紹介されるのは認知症高齢者や依存症者が多かったが、次第に自室で実施することを希望する患者が増え、慣れてくると予定の日時に部屋で待っていたり、荷物をもってくる研究者を助けようとする等の言動も見られた。HM による血圧、脈拍、唾液アミラーゼによるリラクセーション効果を検討した結果については、継続して HM を受けている患者については効果が見られたが、1〜2 回程度で継続していないケースについては明確な結果が得られなかった。この結果から、HM の導入時には患者自身の希望の確認および患者自身が HM に自然に興味関心を持てる環境づくりが必要性が留意点として確認できた。また、本研究において自ら希望して HM を受けた患者の 9 割が女性患者であったことから、男性患者にとっての HM の意味について、聞き取りなどを通して検討する必要性も示唆された。

(4)これらの結果を踏まえて、精神科病棟における精神疾患患者への HM のケア技術を用いた介入について、精神専門看護師および精神看護熟練看護師への面接調査を実施した。その結果、対象者全員が何らかの意図的介入をするためのかかわりの糸口をつくるために、HM やふれるケアを活用していることが 明らかになった。この結果は、既述した事例分析を合わせて検討してみると、研究者らが考案している HM そのものを提供する援助とは区別されるケアであった。すなわちケア提供者がかかわる患者に何らかの変化や行動変容を期待せずに、ただ HM が実施されるふれるケアとしての HM は、専門看護師や熟練看護師のかかわり方と異なるケア技術と

して成り立ち得る可能性が示された。本研究で着目したのは、医療者側の考えるある目標に向かい患者の状態や状況の改善を図るために HM を活用するというものではなく、患者自身に心地よさやリラクセーションをもたらすことのできるケア技術としての HM の開発であった。この点について、精神保健指定医に面接調査を実施し、また、実際にふれるケアを推奨している精神保健指定医の取組みやこれから始めるふれるケアの実施スペースなどのフィールド調査を実施した。その結果、かつて入院経験のある精神疾患患者より、入院中にこのような援助を得られると心身の緊張が緩和され非常によいとの評価を得ることができた。また、精神保健指定医からも何かを目的にしない、真に身体を休めたり、リラックスでき、心地よさや安心感をからだにふれるという体験を通して実感することが、生きにくさを抱えている精神疾患患者にとって有効であろうという評価を得た。臨床現場では HM などのふれるケアが治療的目標を達成するための手段として位置付けられることもあり、そうした意図を持たないケアも合わせて探求する必要性が示唆された。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕（計 7 件）

鬼頭和子,鈴木啓子,平上久美子(2016),医療従事者へのメンタルヘルス支援の試み―ハンドマッサージによる体験型研修の効果―名桜大学紀要(21),pp41-48

鬼頭和子,鈴木啓子,平上久美子(2017),精神看護実習においてマッサージを実施した看護学生の体験，名桜大学総合研究 26 号,pp21-29.

鈴木啓子,鬼頭和子,平上久美子(2017）,ハンドマッサージ中の健康な成人の姿勢と視線および

鬼頭和子,鈴木啓子,平上久美子(2017)ハンドマッサージをめぐる認識―観察および面接調査を通して―，名桜大学紀要 22 号,pp.91-99.

鬼頭和子,鈴木啓子,平上久美子(2017),精神科病院長期入院患者へのビフレンディングの効果の検討，名桜大学紀要 22 号,pp.71-78.

鬼頭和子,鈴木啓子,平上久美子(2017),精神看護実習においてマッサージを実施した看護学生の体験，名桜大学総合研究所紀要(26),pp.21-29.

平上久美子,鬼頭和子,鈴木啓子(2019)，精神看護実習における看護学生の実施する触れるケ ア の現状―学生へのアンケートから明らかになったこと―，名桜大学総合研究 28 号,pp.

〔学会発表〕（計 12 件）

鈴木啓子,鬼頭和子,平上久美子(2015),陽性症状のある統合失調症患者の自己表現へハンドマッサージがもたらす影響，第 35 回日本看護科学学会(広島).

鬼頭和子,鈴木啓子,平上久美子(2015),精神看護実習において触れるケアを実施した看護学生の体験,第 25 回日本精神保健看護学会(広島).

鬼頭和子,鈴木啓子,平上久美子(2015),マッサージなど対象者に直接触れるケアを実施した看護学生の学びについて文献検討，第 40 回日本看護研究学会(広島).

鈴木啓子,平上久美子,鬼頭和子(2016),ハンドマッサージを受けた健康な成人の身体と視線―観察および面接調査を通して―，第 42 回日本看護研究学会学術集会.

鬼頭和子,鈴木啓子,平上久美子(2016),医療従事者を対象としたメンタルヘルス研修の考察―ハンドマッサージによる体験型研修の効果―，第 26 回日本精神保健看護学会学術集会.

鈴木啓子,平上久美子,鬼頭和子(2016),ハンドマッサージを受けた健康な成人の身体と視線―観察および面接調査を通して―，第 42 回日本看護研究学会学術集会.

鈴木啓子,鬼頭和子,平上久美子(2017),精神科急性期治療病棟におけるハンドマッサージの取り組み,第 43 回日本看護研究学会学術集会.

Keiko Suzuki, Kito Kazuko and Kumiko Hirakami (2017), Hand-massage engagements for patients hospitalized in Japanese psychiatric wards, TNMC & WANS International Nursing Research Conference 2017.

Kazuko Kito, Keiko Suzuki and Kumiko Hirakami(2017), Nurse Students' Experiences in Giving Massages to Patients as Touching Care in Psychiatric Nursing Practice, TNMC & WANS International Nursing Research Conference 2017.

平上久美子,鬼頭和子,鈴木啓子(2018),精神看護実習において看護学生が実施する触れるケアの 意味，日本統合医療学会山陰支部第 3 回学術大会.

鬼頭和子,鈴木啓子(2018),慢性期統合失調症患者への足浴・マッサージのリラクセーション効果．第 27 回日本精神保健看護学会(東京)

鈴木啓子,鬼頭和子,平上久美子(2018),精神科入院患者へのハンドマッサージを用いた看護援助についての熟練看護師の認識，日本質的心理学会第 15 回大会(沖縄)

〔図書〕（計 2 件）

岩崎弥生,渡邉博幸編著,鈴木啓子章担当:『新体系看護学全書　精神看護学②精神障害をもつ人の看護』,メヂカルフレンド社, pp.261-289.2016.

日本精神科看護技術協会監修,鬼頭和子章担当：精神科ナースのアセスメント&プランニング

books 統合失調症の看護ケア,中央法規出版社,東京, pp223-234.2017.

〔産業財産権〕
○出願状況（計　0 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年：
国内外の別：

○取得状況（計 0 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

６．研究組織

(1)研究分担者
研究分担者氏名：鬼頭和子
ローマ字氏名：Kito Kazuko
所属研究機関名：公立大学法人名桜大学
部局名：人間健康学部看護学科
職名：准教授
研究者番号（8 桁）：90714759

研究分担者氏名：平上久美子
ローマ字氏名：Hirakami Kumiko
所属研究機関名：公立大学法人名桜大学
部局名：人間健康学部看護学科
職名：上級准教授
研究者番号（8 桁）：00550352

(2)研究協力者
研究協力者氏名：
ローマ字氏名：

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。